

平成 26 年度 第 2 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録

日時：平成 26 年 9 月 10 日（水）12:00～15:00

場所：大阪大学 豊中キャンパス 全学教育推進機構 A 棟 A203

■出席者

委員長： 桑原 雅夫（東北大学）

副委員長： 久保田 尚（埼玉大学），秋山 孝正（関西大学）

幹事長： 多々納 裕一（京都大学）

学術小委員長： 屋井 鉄雄（東京工業大学）代理：福田 大輔

H27 春大会開催校：吉武 哲信（九州工業大学）代理：轟 朝幸

委員兼幹事： 井田 直人（北工大），倉内 慎也（愛媛大），藤見 俊夫（熊本大），
福本 潤也（東北大），福田 大輔（東工大），真田 純子（徳島大），
讃井 一将（国際協力機構），金子 雄一郎（日大），
大沢 昌玄（日大），大西 正光（京大），林 淳二（土木学会）

■資料

[資料 1] 平成 26 年度 第 1 回土木計画学研究委員会幹事会 議事録（案）

[資料 2] 土木計画学研究委員会 委員兼幹事 入替り対応表

[資料 3-1-1] JSCE2015（仮称）重点課題（案）に対する活動計画記入表

[資料 3-1-2] JSCE2015 の土木学会の 3 つの使命と具備すべき 9 つの機能に対する活動
計画記入表

[資料 3-1-3] JSCE2010 の実施状況に関する部門ごとの自己評価（2012 度）

[資料 3-3] 研究小委員会担当 報告資料

[資料 3-4] ホームページの更新状況と今後の改良方針

[資料 3-5] 土木計画学研究委員会国際セミナーについて（報告）

[資料 3-7-1] ワンデーセミナー起案書

[資料 3-7-2] 土木計画学ワンデーセミナー（企画案） 自転車利用環境計画の進展と
課題

[資料 3-8] 平成 26 年度全国大会研究討論会参加申し込み（案）

[資料 4-1] 土木計画ハンドブック出版事業運営小委員会 第 1 回幹事会議事録（案）

[資料 4-2] 土木計画学研究委員会 50 周年記念事業に関する打合せの議事録（案）

[資料 4-3] 減災アセスメント小委員会（案）

[資料 4-4] 「これからの社会インフラメンテナンス技術戦略（仮）」シンポジウムに
おける成果発表の検討について（依頼）

[資料 5] 学術小委員会報告

[資料 6] 春大会運営小委員会（第 49 回土木計画学研究発表会）報告資料

1 開会

- ・ 桑原委員長より，開会の挨拶が行われた。
- ・ 前回の議事録が確認された。

2 委員会組織の確認

- ・ 各タスクの業務の役割を確認した。
- ・ 国際センター担当タスクを渉外担当タスクと名称変更する案が出された。

3 平成 26 年度幹事担当タスクの検討状況報告

① 活動評価・中期目標対応（報告者：藤見）

- ・ JSCE2015（仮称）重点課題（案）に対する活動計画記入表が提示され，内容について意見を求めた。
- ・ 原案は従来通りの活動を継続的に行うことで満たされる内容となっている。幹事長から，新たな活動を求める活動計画を設定してもよいとの意見が出された。

② 本委員会対応（報告事項なし）

③ 研究小委員会対応（報告者：井田）

- ・ 各小委員会からの活動報告に合わせて，その時点での委員名簿の提出を求めることとした。
- ・ HP で各研究小委員会の設立趣旨，活動状況などを掲載していく方針が示された。HP の CMS 化を図ることで，各小委員会が直接 HP 内容を編集できるようにし，より頻度良くタイムリーな HP 更新につなげることについて議論された。

④ HP 担当（報告者：倉内）

- ・ 現在，HTML 形式で編集しているが，作業の簡便性のため今後イベントページから CMS 化していく方針が説明された。
- ・ 研究小委員会の設置申請書の様式変更（案）が示された。この変更により，HP 掲載がしやすくなる利点がある。様式には，HP 掲載される記入箇所を明記することとした。
- ・ 「一般向けページ」については，「知恵袋」及び「関連プロジェクト紹介」の更新頻度が低いため，各小委員会に作成依頼するとともに，執筆した人は次の執筆者を指名するリレー方式をとって，更新頻度を持続させる提案がなされた。

⑤ 国際セミナー（報告者：讃井）

- ・ 開催回数を増やすため，セミナー開催情報を IPML に掲載することを周知努力していくことが確認された。
- ・ 講師向け Certificate を積極的に発行し，実績を記録することが提案された。
- ・ 国際セミナーに認定されると，土木学会会議室が無料利用できるメリットを周知することとした。

- ⑥ 国際センター担当（報告事項なし）
- ⑦ ワンデイセミナー・シンポジウム（報告者：福田）
 - ・ 2 件のワンデイセミナー（「航空輸送に関する高度なモデル化と統計分析手法の政策への応用」，「自転車利用環境計画の進展と課題」）が提案され，本会で開催承認された。
 - ・ 学会側から，ワンデイセミナーはできるだけ独立採算で行い，親委員会を含めて補助金支弁は避けてほしい旨要望が伝えられた。
- ⑧ 全国大会研究討論会（報告者：福本）
 - ・ 「Global な視点で見直そう，土木分野における NPO 活動」1 件が開催予定であることの報告がなされた。幹事長から必ずしも毎年行う必要はないとの意見が出された。

4 H26 年度の幹事会タスクについて

- (1) 土木計画学ハンドブック（報告者：福本）

現在，各執筆者からそれぞれの目次構成が示され，今後幹事担当で重複の有無を確認している段階であること，今後執筆依頼する旨の現状報告がなされた。
- (2) 50 周年記念セミナー（報告者：多々納幹事長）

2016 年 9 月，50 周年を迎える。この機会に記念セミナーシリーズを企画したい。現在開催が決定しているのは，8 月 10 日のシンポジウムのみ。

メインイベントが必要となるが，単独の記念セミナーを企画するよりも 2016 年秋大会に関連付けて開催することが望ましいとの意見で一致した。会場は，交通アクセスの良い東京周辺の大学が望ましい。

HP で早めに広報していく必要性も確認された。
- (3) 減災アセスメント（報告者：多々納幹事長）

以下の課題に対応するため，減災アセスメント小委員会を設置する考えが示された。今後，関与するメンバーを決めていくことが確認された。

東日本大震災の経験から，減災が求められている。津波対策としては，防潮堤の高さが決められているが，事業進展が難しい箇所については，高さを低くして後背地のまちづくりや避難対策を強化することで総合的に減災につなげていく考え方がある。これらは海岸工学のみならず，計画学も関与していく領域である。
- (4) 社会インフラメンテナンス（報告者：多々納幹事長）

25 分間の発表者を募集している。小林先生の小委員会で受けてもらうのがよいのではないかとの意見が出された。

5 学術小委員会報告

- ・ 福田幹事より，春大会について報告がなされた．発表本数によって収入が増減するため，収入・支出の振れ幅が 100 万円単位と大きい．収入が多くとも年度を越えてプールできない制度となっており，制度を検討することとした．
- ・ 今年度秋大会については，論文投稿数は例年並み．ホテルは一定量確保できた．
- ・ 来年度の春大会は 2015 年 6 月 7 日-8 日，秋大会は 11 月 21 日-23 日で日程が確定した．

6 研究発表会の準備状況について （報告者：轟）

- ・ 来年度の新しい体制について報告された．
- ・ 今年度の春大会（東北工業大学）では，昨年度比で論文数 45 本減となった．原因として，企画部門（ビッグデータ系）への投稿が集中し，定数を収まらないものは第 2 希望セッションに回すことができるが，第 2 希望が記されていない論文は不採択にせざるを得なかったことが挙げられる．
- ・ 特集号への投稿資格として，学会発表が行われていることを厳密に運用することとした．例えば，病気などで発表できなかった場合は特集号への掲載を行わないこととする．
- ・ 特定の発表テーマに集中することに対して何らかの対策を講ずる必要性が確認された．
- ・ セッション数が減じられ，本数が増えたため，討議に割ける時間が短くなったことが課題として挙げられた．

7 その他

次回幹事会合は，2014 年 12 月 3 日，6 日，13 日のいずれかに東京で開催することを確認した．

（記録：讚井）